

令和7年度「親の育ち」家庭教育支援者養成講座

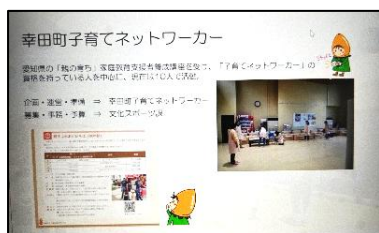
本年度の『親の育ち』家庭教育支援者養成講座では、既に子育てネットワーカーとして活動している方、これから子育てネットワーカーを志す方、家庭教育や子育てに興味がある方など、90名を超える受講者が参加されました。

研修を終えた方が、今後、「子育てネットワーカー」として、各市町村で子育てや家庭教育に奮闘している保護者を支援する立場として御活躍いただけることを期待しています。

＜講座の内容＞ ※2日はオンライン、1日は会場参加とオンライン参加によるハイブリッド方式で開催

講座	開催日	内 容
1	9月11日 (木)	単位C：①「県の家庭教育支援施策の動向」「受講者とのつながりづくり」 講師：愛知県教育委員会あいちの学び推進課家庭教育担当
2		②「子育てネットワーカーとの協働の実際」 講師：幸田町教育委員会文化スポーツ課 主事 飯塚 奏茉 氏
3	9月16日 (火)	単位A：「多様な家族への理解と保護者への支援：乳・幼児期の子育て編」 講師：名古屋学芸大学 准教授 加藤 望 氏
4		単位D：「オンラインだからこそできる子育て支援とは ～事例紹介と支援側のオンラインに対するハードルを低くしよう～」 講師：悩めるママの一步を応援プロジェクト「なやっぽ」 代表 橋爪 美貴 氏
5	9月24日 (水)	単位E：「家庭教育研修会の講座運営の方法、『親の学び』学習プログラムの活用について」 講師：豊川市子育てネットワーカー 志村 貴子 氏
6		単位B：「子供の特性と保護者支援：児童期・思春期編」 講師：愛知教育大学 教授 高橋 靖子 氏 単位F：「子供の虐待をなくしたい～体罰によらない子育てのために～」 講師：NPO法人CAPNA 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち 理事 忠平 守 氏

＜単位C＞ 県の家庭教育支援施策の動向、受講者とのつながりづくり、子育てネットワーカーとの協働の実際



愛知県の行政説明では、県として行っている家庭教育支援の内容について紹介するとともに、アウトリーチ型支援の普及・定着に向けた検討の必要性について説明しました。そして、ブレイクアウトルームを使ったグループワークを行い、受講者同士のコミュニケーションを促し、気軽に話せる雰囲気づくりをしました。その後、幸田町の子育てネットワーカーの活動の実際について具体的に御紹介いただき、家庭教育支援のために自分たちは何ができるかを考える良い機会となりました。

＜単位A＞ 多様な家族への理解と保護者への支援：乳・幼児期の子育て編

保育者養成教育に長年携わっている講師から、乳幼児期の子育て家庭に対する支援の在り方について御講義いただきました。ひとり親、ステップファミリー、レインボーファミリーなど多様な家族のかたちがあること、どの保護者にも心理的・社会的な支援が求められることや、保育者自身がアンコンシャス・バイアスに気づき、自己覚知のもと、保護者との信頼関係を築くことが、子供と家庭の福祉向上にもつながっていくというお話をいただきました。途中でブレイクアウトルームを活用したグループワークも行われ、自分を見つめ直したり、仲間と意見交換したりしながら学ぶことができました。



<単位D> オンラインだからこそできる子育て支援とは
～事例紹介と支援側のオンラインに対するハードルを低くしよう～



子育てに悩むママたちを応援するため、多様な専門スキルをもつ支援者が集まり、オンラインを活用した支援を展開している講師から、自身の経験を基に、これからの家庭教育支援について、お話しいただきました。「近隣に相談しづらい」「情報が多すぎて迷ってしまう」といった現代の育児の悩みに寄り添い、気軽に参加できる環境をつくるためにもオンライン支援のハードルを下げることの必要性を教えていただくとともに、参加者同士のグループワークの中で、それを実現することでどのような影響がもたらされるかを具体的に考えることができました。

<単位E> 家庭教育研修会の講座運営方法、『親の学び』学習プログラムの活用について

子育てネットワーカーとして長く活躍されている講師から、自身が講座をしてきた経験や心構えを基に、どのようにして参加者を話に引き込んでいくのか、飽きさせず楽しく聞いてもらえるようにするために準備するとよいことなどについてお話しいただきました。また、子育てのある一場面を基にしたグループワークを行い、実際にプログラムの進行を体験するとともに、どのように参加者の意見をまとめたりアドバイスをしたりすると相手の心に響くかについて共有することができました。



<単位B> 子供の特性と保護者支援：児童期・思春期編



大学で親子関係の研究に携わっている講師から、児童期・思春期の子供の特性と、子育て支援のポイントについて御講義いただきました。児童期は抽象思考や仲間関係が形作られ、思春期は自我の確立や感情の不安定さが顕著になることや、脳の未成熟により衝動的な行動や感情爆発が起こりやすいことについてお話しいただきました。グループワークで事例をもとに対応策を考えながら、保護者は子供の「あるがまま」を受け入れ、努力の過程を認めることが大切であること、家庭・学校・専門家の連携が、子供の健全な成長と自尊心の育成に不可欠であることを学ぶことができました。

<単位F> 子供の虐待をなくしたい～体罰によらない子育てのために～

40年に渡り、福祉行政に従事され、NPO法人「CAPNA」で活動されている講師から、虐待の現状や子供への影響について御講義いただきました。4類型に分類されている虐待の中で、心理的虐待が最も多く、増加傾向にあることやマルトリートメントは脳の発達に悪影響を及ぼすこと、体罰は法改正により禁止されていることについてお話しいただきました。また、体罰についてどのように考えるかをグループで共有するとともに、里親制度や子ども食堂が、子育て支援において大きな役割を担っているとの紹介もあり、地域全体で子育てを支える重要性について学ぶことができました。



<参加者の声>

- 幼児や小学生を育てている親世代に、何か支援できることはあるのかなど、自分がかかわれることはあるのか、まずは調べてみたいと思う。
- 「講座の作り方・進め方」は、今後、自分に取り組んでいきたいことだったので、とても勉強になりました。もし、講師を務める機会ができれば、是非、参考にさせていただきます。
- 多様な家庭環境や子育てになってきているが、大切な基本は変わっていないということ。そのことを踏まえて、子供と接し、親へと伝えていけるように環境や関係を築いていきたい。
- 内容も良かったのですが、実際に話し合いができたことがとても有り難かったです。
- 傷つきやすい子供の「よいところ」を見つけるエクササイズでは、見方やとらえ方を変えてみるとよいことを学んだ。支援する際には今回の経験を生かし、良いところを伸ばす言葉がけをしたいと思った。